

|           |      |                     |                      |
|-----------|------|---------------------|----------------------|
| 科目名       | 単位数  | 指導学年・類・型            | 必修・選択                |
| 国語総合（現代文） | 5（2） | 1年・1類               | 必修                   |
| 授業担当者     |      | 教科書名                | 副教材等                 |
| —         |      | 国語総合 現代文編<br>（東京書籍） | 常用漢字ダブルクリア<br>（尚文出版） |

|  |
|--|
| <p>科目の到達目標</p> <p>国語の表現力・理解力を育成し、それらの能力を基盤として、人と人との関係の中で、言語を通して円滑な相互伝達・相互理解を実現する能力を高める。</p> <p>適切な表現や的確な理解の基盤となる思考力や想像力を伸長させるとともに、他人への思いやりの心や物事に感動する心など、豊かな人間性を育む。</p> <p>言葉の美しさや用法の適否、表現の効果などを判断する言語感覚を磨き、小説や詩歌をはじめとする様々な言語文化に目を向け、国語を大切にすることを培う。</p> |
|--|

|   |
|---|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>個別の単元ごとに論理的読解力、思考力や語彙力等が備わっているかを定期考査で検証、評価する。漢字の小テストの結果やノートの提出をもって成績の評価の一部とする。授業に取り組む姿勢や態度、課題の提出等も評価に加える場合がある。</p> |
|---|

|             | 月 | 学習単元・項目                          | 学習のねらい                           | 具体的な学習内容と方法  |
|-------------|---|----------------------------------|----------------------------------|--|
| 一<br>学<br>期 | 4 | 評論<br>「技術が道徳を代行する時」 池内 了         | ・評論を読み、内容を的確に理解する。               | ・主述の関係を捉えて要点を理解する。<br>・具体例と筆者の主張との関係を読み取り、全体の構成を理解する。  |
|             | 5 | 評論<br>「水の東西」 山崎正和                | ・技術と人間の関係、日本と西洋の文化の違いについて理解を深める。 | ・接続詞の種類について理解し、読解に役立てる。<br>・日本の「鹿おどし」と西洋の「噴水」に含まれる文化の対比関係を、文中から抜き出し理解する。<br>・具体的な表現から、抽象的な表現へと展開していく基本的な論理方法を理解する。 |
|             | 6 | 1 学期中間考査<br>小説<br>「羅生門」 芥川龍之介    | ・小説に親しみ、話の展開や主題を読みとる。            | ・作品に即して、描かれた場面や作中人物の心情を正しく理解する。<br>・登場人物の言動や関係性の変化に注意して場面展開を理解する。  |
|             | 7 | 評論<br>「<顔>という現象」 鷲田清一<br>1 学期末考査 | ・内容を的確に理解し、筆者の考えを読み取る。           | ・自己と他者の関係について、叙述に即して的確に理解する。   |

|             | 月  | 学習単元・項目  | 学習のねらい  | 具体的な学習内容と方法   |
|-------------|----|--|---|---|
| 二<br>学<br>期 | 9  | 評論<br>「言葉は『ものの名前』<br>ではない」 内田樹                         | ・ 比喩で表された内容や具体例から筆者の主張を理解する。                            | ・ 考察する上で挙げられた例を正確に理解し、伝統的な言語観と筆者の意見を読み取る。   |
|             | 10 | 随想<br>「蟬と日本語」<br><br>2学期中間考査<br>小論文指導・ガイダンス<br>小論文添削講座 | ・ 筆者の独特のものの見方や考え方をすることで、興味関心を喚起し、問題意識をもって自ら考えることを促す。    | ・ 評論「言葉は『ものの名前』ではない」と読み比べて、言語についての考え方の相違点を考える。  |
|             | 11 | 小説<br>「城の崎にて」 志賀直哉                                     | ・ 登場人物の心の動きに注意して、まとまった分量の小説を読み味わう。                      | ・ 叙情部分、情景描写に注目し、心情の変遷や、心境の深化を理解する。  |
|             | 12 | 評論<br>「広告の形而上学」 岩井克人<br><br>詩<br>「小景異情」<br><br>2学期末考査  | ・ 抽象度の高い評論を読むことで、文章を的確に読む力を伸ばす。<br>・ 近現代の詩に親しみ、詩情を味わう。  | ・ 近代の私小説を読み味わうことで自身の感性を磨く。<br>・ 語彙や比喩等で表された内容を正確に理解するだけでなく具体例や引用の意味を押さえながら、筆者の意見を的確に読み取る。<br>・ 詩に表れた言葉のはたらきを知り、表現上の特色を理解し、詩情を味わう。<br>・ 詩の形式を学ぶ。 |
| 三<br>学<br>期 | 1  | 随想<br>「少女たちの『ひろしま』」 梯久美子                               | ・ 戦争と人間について書かれた文章を読み、考えを深める。                            | ・ 作中に描かれた出来事や筆者の気づきの時期を整理し、随想の読み方を理解する。   |
|             | 2  |  |   | ・ 筆者のものの見方や感じ方、表現の仕方に注意して読み取る。  |
|             | 3  | 評論<br>「生物の多様性とは何か」 福岡伸一<br><br>白牡丹—俳句抄十二首<br><br>学年末考査 | ・ 文章の構成や展開を理解し、ものの見方や考え方を豊かにする。<br><br>・ 俳句に親しみ、詩情を味わう。 | ・ 文中で表された概念を理解し、筆者の意見を的確に読み取る。<br>・ 現代における多様な社会化について学び、自分の生き方、考え方を振り返る。<br>・ 俳句における言葉のはたらきを知り、表現上の特色を理解する。                                      |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・ 感覚的に読解するのではなく、文や文章の構成を的確に把握することで、論理的な読解ができるように意識して取り組む。
- ・ 予習として必ず教材を読んでおき、漢字の読みや言葉の意味をチェックしておく。
- ・ 漢字の小テストを実施し、評価に組み込む。
- ・ 教科書の読解だけでなく新聞や参考書等も読み、授業で培った読解法を実践していくことで確かな学力を自主的に育てていく。
- ・ 小論文入試・論述問題を視野に入れながら、計画的に文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

|          |      |                    |                                    |
|----------|------|--------------------|------------------------------------|
| 科目名      | 単位数  | 指導学年・類・型           | 必修・選択                              |
| 国語総合（古典） | 5（3） | 1年・1類              | 必修                                 |
| 授業担当者    |      | 教科書名               | 副教材等                               |
|          |      | 国語総合 古典編<br>（東京書籍） | 古典文法クリアノート（尚文出版）<br>古文単語 325（尚文出版） |

|  |
|--|
| <p>科目の到達目標</p> <p>国語の表現力、理解力を育成し、それらの能力を基盤として、人と人の中での円滑な相互伝達・相互理解を実現する能力を高める。</p> <p>適切な表現や的確な理解の基盤となる思考力を伸長させるとともに、他人への思いやりの心や感動する心など、豊かな人間性を育む。</p> <p>言葉の美しさや用法の適否、表現の効果などを判断する言語感覚を磨き、古典をはじめとする様々な言語文化に目を向け、国語を大切にする態度を培う。</p> |
|--|

|   |
|---|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>古典分野は、古文・漢文の基本的知識、理解を定期考査で測るとともに、文語文法の力、基本古語の知識の積み上げを定期的な小テストでチェックし、それらを全体の評価の一部とする。</p> |
|---|

|             | 月 | 学習単元・項目   | 学習のねらい  | 具体的な学習内容と方法   |  |
|-------------|---|---|---|---|--|
| 一<br>学<br>期 | 4 | 古典の学習について<br><br>説話「検非違使忠明」<br>（今昔物語集）<br>説話「絵仏師良秀」<br>（宇治拾遺物語） | 古文の表記に慣れ親しむ。<br>説話のおもしろさを味わう。                 | 古典の学習の仕方についてよく理解する。<br>歴史的仮名遣いに親しみ、音読を繰り返すことで古典の文章表現に慣れる。<br>現代語と古語の違いを整理して学習する。<br>（古文学習のしるべ1）<br>古文の特徴・品詞の種類・活用形を学習する。<br>（古文学習のしるべ2） |  |
|             | 5 | 訓読の基本<br><br><b>1学期中間考査</b>                                     | 漢文訓読の基本について理解する。                              | 訓点の基礎を学んで繰り返し練習し、自分で書き下し文にできるようになる。   |  |
|             | 6 | 説話「大江山の歌」<br>（十訓抄）<br>随筆「ある人、弓射ることを習ふに」<br>「九月二十日のころ」<br>（徒然草）  | 小式部内侍の行動と詠んだ歌の内容を理解する。<br>兼好法師の考え方・価値観を理解させる。 | 係り結び、接続助詞「ば」の用法を学習する。<br>（古文学習のしるべ3）<br>兼好法師の教訓を理解し、自らの生活を見つめ直す。動詞の活用について学習し、理解しながら作品を読む。   |  |
|             | 7 | 再読文字<br>故事成語<br>「推敲」（唐詩紀事）                                      | 文章の訓読に慣れさせる。                                  | 置き字や再読文字について学び、漢文の訓読に慣れる。   |  |
|             |   |   | <b>1学期末考査</b>                                 |   |  |
|             |   |   |   |   |  |
|             |   |   |   |   |  |

|             | 月  | 学習単元・項目                                | 学習のねらい  | 具体的な学習内容と方法   |
|-------------|----|--|---|---|
| 一<br>学<br>期 | 9  | 歌物語「東下り」「筒井筒」(伊勢物語)                    | 登場人物の心情を読み取り、歌を味わうことで歌物語のおもしろみを理解する。                | 和歌の解釈について学習し、歌に集約された物語の内容を理解する。当時の恋愛や結婚についても学習する。また、形容詞・形容動詞を学習する。                    |
|             | 10 | 寓話「朝三暮四」(列子)                           | 話の内容や表現の仕方を理解し、寓話にこめられた意図を理解する。                     | 置き字・再読文字について確認し、本文を自分で書き下し文にする。重要語・句法について学習する。  |
|             | 11 | <b>2学期中間考査</b><br>日記「馬のはなむけ」「帰京」(土佐日記) | 古人と現代人の心理とに、相通ずるものがあると知る。                           | 冒頭については暗誦テストを行なう。平安時代の風俗・習慣について学習する。また、助動詞について学習する。                                   |
|             |    | 随筆「五月ばかりなどに山里を歩く」「ありがたきもの」(枕草子)        | 清少納言の考え方・価値観を理解させる。                                 | 清少納言の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。   |
|             | 12 | 唐詩4首(杜甫・李白ほか)<br><br>雑説(韓昌黎集)          | 漢詩の音律を味わい、詩人の心情を理解させる。<br><br>描かれた状況や心情を考えながら読み味わう。 | 漢詩のきまりについて学習し、詩中に込められている深い意味を正しく理解する。また、唐代の詩人についての知識を学ぶ。論旨の展開と巧みな比喻表現を把握して作者の主張を理解する。 |
|             |    | <b>2学期末考査</b>                          |   |   |
| 三<br>学<br>期 | 1  | 俳諧紀行文「平泉」(奥の細道)                        | 古人の生き方や自然・人事に対する感じ方を味わう。                            | 芭蕉の旅への思いや、自然と人事のあり方について学ぶ。  |
|             | 2  | 和歌集「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」                | それぞれの和歌に込められた歌人の思いを理解する。                            | 歌風や修辞法を体系的に学習する。また、短い言葉に込められた深い意味を理解する。(古文学習のしるべ4)                                    |
|             |    | 史話「管鮑之交」(十八史略)                         | 史話に描かれた情景や人物の心情などを、表現に即して読み味わう。                     | 話の展開に沿って、登場人物の言動や心情を考える。  |
| 3           | 論語 | 古代中国の思想について理解を深め、ものの見方、考え方を豊かにする。      | 孔子が理想としたものは何かを考える。                                  |   |
|             |    | <b>学年末考査</b>                           |   |   |

その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )

予習を前提に授業を進めるので、古文は音読・口語訳を考えることを、漢文は音読・書き下し文に直すことを必ずしておくこと。単元毎の小テストを実施し、成績に入れる。考査は現代国語・古典に分けて実施するが、学年末には両方の得点を併せて国語総合として評価する。

|           |            |            |       |
|-----------|------------|------------|-------|
| 科目名       | 単位数        | 指導学年・類・型   | 必修・選択 |
| 国語総合（現代文） | 5（2）       | 1年・2類      | 必修    |
| 授業担当者     | 教科書名       | 副教材等       |       |
|           | 国語総合（東京書籍） | 漢字熟語集・問題集等 |       |

|  |
|--|
| 科目の到達目標  |
| 国語の論理力、表現力、理解力を育成し、それらの能力を基盤として、人と人との関係の中で、言語を通しての円滑な相互伝達・相互理解を実現する能力を高める。 |
| 評論を通じて、適切な表現や的確な理解の基盤となる思考力を錬成し、文学作品や詩歌などを通じて、豊かな想像力や人間性を育む。               |
| 言葉の美しさや用法の適否、表現の効果などを判断する言語感覚を磨き、自分の考えや意見を適切な言葉で表現する能力を身につける。              |

|  |
|--|
| 評価の観点と方法について                                 |
| ・個別の単元ごとに、読解力、表現力や語彙力等が備わっているかを定期考査で検証、評価する。 |
| ・漢字熟語集を用いて漢字小テストを実施し、その結果を評価の一部とする。          |
| ・課題提出を評価の一部とする。                              |
| ・学習活動への参加姿勢や態度を評価の一部とする。                     |

|             | 月 | 学習単元・項目   | 学習のねらい                           | 具体的な学習内容と方法   |
|-------------|---|---|----------------------------------|---|
| 一<br>学<br>期 | 4 | 評論<br>「技術が道徳を代行するとき」池内 了<br>「水の東西」 山崎正和               | ・表現に注意して評論を読み、本文の内容を的確に理解する。     | ・論の展開に注意して評論を読み、技術の発達と道徳的な判断力の関係について理解する。<br>・「水」をめぐる日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。<br>・文章構成に注意して、「考え方」の姿勢について抽象的に書かれた評論を的確に読み取る。 |
|             | 5 | 「客観的と抽象的」<br>森 博嗣<br><br>1学期中間考査<br>小説<br>「羅生門」 芥川龍之介 | ・小説に描かれた登場人物・情景・心情などを、表現に即して考える。 | ・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。  |
|             | 6 | 評論<br>「〈顔〉という現象」<br>鷲田清一<br>「言葉はものの名前ではない」 内田 樹       | ・評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。  | ・自己と他者の関係について、〈顔〉を通じて書かれた評論を、叙述に即して的確に読み取る。<br>・言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。   |
|             | 7 | 1学期末考査<br>夏期講習  |                                  |   |

|             | 月  | 学習単元・項目  | 学習のねらい  | 具体的な学習内容と方法  |
|-------------|----|--|---|--|
| 一<br>学<br>期 | 9  | 随想<br>「少女たちのひろしま」<br>梯 久美子<br>小説<br>「城の崎にて」 志賀直哉 | <ul style="list-style-type: none"> <li>戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いをめぐらし、時代や社会について考える態度を養う。</li> <li>小説に描かれた出来事や登場人物の心情などを、表現に即して読み取る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>筆者のものの見方や感じ方、表現の特色に注意して随想を読む。</li> <li>小動物の生と死をめぐる出来事が主人公の心情に及ぼした影響を、表現に即して読み取る。</li> <li>自分という存在について、特有の語り口で書かれた小説を読み、「鏡」が持つ意味について考える。</li> </ul>            |
|             | 10 | 「鏡」 村上春樹<br>2学期中間考査<br>評論<br>「広告の形而上学」<br>岩井克人   | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や展開に注意して評論を読み、自ら考える態度を養う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>比喩に注意して、広告の奇妙さについて書かれた評論を読み、現代社会の特質について考える。</li> </ul>  |
|             | 11 | 「映像文化の変貌」<br>松浦寿輝<br>詩歌と評論                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>詩歌に親しみ、そこに描かれた世界を味わう。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>複製技術が発達した現代の映像文化について書かれた評論を、叙述に即して的確に読み取る。</li> <li>短歌・俳句の形式やリズム、表現方法に注意して読む。</li> </ul>  |
|             | 12 | 小論文添削講座第1回<br>2学期末考査<br>冬期講習                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>論題について、論拠を明確にして意見を述べる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>得られた情報を整理し、根拠を明確にして考えをまとめる。</li> </ul>  |
| 三<br>学<br>期 | 1  | 評論<br>「生物の多様性とは何か」<br>福岡伸一                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や展開を確かめて評論を読み、ものの見方、考え方を豊かにする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「生物多様性」についての書かれた評論を読み、ヒトが自ら守るべき「分際」について考えを深める。</li> <li>（私）が尊重される現代社会におけるデモクラシーが抱える課題を理解し、視野を広げる。</li> <li>暇を得た社会の中で、個人はどうかについて、引用と主張の関係に注意して読み取る。</li> </ul> |
|             | 2  | 「〈私〉時代のデモクラシー」<br>宇野重規<br>「隙と退屈の倫理学」<br>國分功一郎    |   |  |
|             | 3  | 学年末考査  |   |  |

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- 予習として、次の授業で扱う教材を、必ず指示された作業をしながら読んでおくこと。
- 漢字小テストの成績を評価に組み込むので、入試漢字を身に付ける方策として有効活用してほしい。
- 入試小論文・論述問題を視野に入れながら計画的に読解・文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

|          |            |                 |       |
|----------|------------|-----------------|-------|
| 科目名      | 単位数        | 指導学年・類・型        | 必修・選択 |
| 国語総合（古典） | 5（3）       | 1年・2類           | 必修    |
| 授業担当者    | 教科書名       | 副教材等            |       |
|          | 国語総合(東京書籍) | 古文単語集・古典文法テキスト等 |       |

|   |
|---|
| <p>科目の到達目標</p> <p>国語の表現力、理解力を育成し、それらの能力を基盤として、人と人との関係の中で、言語を通しての円滑な相互伝達・相互理解を実現する能力を高める。</p> <p>古典作品の豊かな表現を学習することを通じ、文学作品への理解を深め、日本の歴史文学の学習に関心を持って取り組み、豊かな人間性を育む。</p> <p>言葉の美しさや用法の適否、表現の効果などを判断する言語感覚を磨き、古文や漢文を中心としたさまざまな言語文化に目を向け、日本文化を理解し大切にすることを培う。</p> |
|---|

|  |
|--|
| <p>評価の観点と方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古文・漢文の基礎知識の定着とその理解を定期考査で測る。</li> <li>基本古語の知識の定着を小テストでチェックし、評価の一部とする。</li> <li>古文・漢文の予習をノートの提出で確認し、評価の一部とする。</li> <li>課題の提出を評価の一部とする。</li> </ul> |
|--|

|             | 月 | 学習単元・項目  | 学習のねらい  | 具体的な学習内容と方法   |
|-------------|---|--|---|---|
| 一<br>学<br>期 | 4 | 「検非違使忠明」<br>『今昔物語集』<br>「絵仏師良秀」<br>『宇治拾遺物語』<br>「大江山の歌」『十訓抄』 | <ul style="list-style-type: none"> <li>古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語の決まりを理解する。</li> <li>説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>古文の学習の仕方を理解する。</li> <li>音読を通して古文の言葉と歴史的仮名遣いに慣れ親しむ。</li> <li>現代語訳の注意点・古語辞典の引き方を学ぶ。</li> <li>動詞の活用について理解する。</li> </ul> |
|             | 5 | 漢文 訓読<br>格言  | <ul style="list-style-type: none"> <li>訓読の決まりを理解する。</li> <li>格言・故事を読んで、漢文の世界に親しむ。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢文の特色を知り訓読の基礎を学ぶ。</li> <li>繰り返し音読して、漢文の表現に慣れ親しむ。</li> </ul>  |
|             |   | 1 学期中間考査<br>「丹波に出雲といふ所あり」                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>作者の考えを叙述に即して的確に読み取る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>形容詞・形容動詞の活用について理解する。</li> </ul>  |
|             | 6 | 「ある人、弓射ることを習ふに」 『徒然草』                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>随筆に表れた作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>古語辞典を引きながら予習として現代語訳をする。</li> <li>助動詞の意味と用法を理解する。</li> </ul>  |
|             |   | 漢文<br>再読文字<br>「推敲」<br>「断腸」                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>話の構成や展開を確かめ、寓話の内容や表現の仕方について理解する。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢文に多用される基本的な句形について理解する。</li> <li>故事成語の意味を理解し、現在の用法を理解する。</li> </ul>  |
|             | 7 | 1 学期末考査<br>夏期講習  |   |   |

|  | 月                      | 学習単元・項目                                  | 学習のねらい   | 具体的な学習内容と方法   |
|--|------------------------|--|--|---|
| 二<br>学<br>期  | 9                      | 「芥川」<br>「東下り」『伊勢物語』                      | ・物語に描かれた平安時代の<br>人々のものの見方や感じ方を<br>味わう。   | ・現代語訳をするにあたり、想像力を<br>働かせながら、物語の世界を読み味<br>わう。<br>・和歌の内容と修辞を理解する。     |
|  | 10                     | 漢文<br>「苛政猛於虎也」<br>「塞翁馬」<br>2学期中間考査       | ・話の構成や展開を確かめ、寓<br>話の内容や表現の仕方について<br>理解する。  | ・登場人物の言動から、寓話に込めら<br>れた意図について考える。                                   |
|  |                        | 「筒井筒」『伊勢物語』<br>「いはで思ふ」『大和物語』             | ・物語に描かれた人物、情景、<br>心情などを表現に即して読み<br>取る。   | ・和歌を手がかりに登場人物の心情を<br>理解する。<br>・敬語の用法を学び、敬語が人間関係<br>の把握につながることを理解する。 |
|  | 11                     | 「帰京」 『土佐日記』                              | ・日記文学の表現について理解<br>と関心を深める。   | ・二つの和歌にみえる「小松」「松」の<br>意味と託された心情を読み取る。                               |
|  | 漢文<br>唐詩<br>2学期末考査     | ・唐詩の決まりと表現の特色に<br>ついて学び、唐詩の世界に親<br>しむ。   | ・絶句や律詩など近体詩のきまりにつ<br>いて学習する。<br>・「自然」「友情」「人生」の各詩につ<br>いて、それぞれどのような心情が詠わ<br>れているかを理解する。 |   |
|  | 12<br>冬期講習             |  |  |   |
| 三<br>学<br>期  | 1                      | 和歌<br>『万葉集』『古今和歌集』<br>『新古今和歌集』           | ・三つの歌集の和歌を読み比べ<br>て、時代による歌風の違いを<br>味わう。  | ・それぞれの和歌が詠まれた状況と作<br>者の心情を読み取る。<br>・和歌の修辞法とその効果について理<br>解する。        |
|  |                        | 「木曾の最期」『平家物語』                            | ・軍記に固有の表現を読み味わ<br>う。   | ・軍記物語に描かれた人物、情景、心<br>情などを表現に即して読み取る。                                |
|  | 2                      | 「平泉」『奥の細道』                               | ・作品に込められた作者の思い<br>を感じ取る。   | ・構成や展開を確かめながら文章を読<br>み取る。   |
|  | 漢文<br>「管鮑之交」<br>「臥薪嘗胆」 | ・史話に描かれた情景や人物の<br>心情などを、表現に即して読<br>み味わう。 | ・話の展開に沿って、登場人物の心情<br>や生き方を考える。   |   |
|  | 3<br>学年末考査             |  |  |   |
| <p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習ができていない前提で授業を進めるので、指示された予習を必ずすること。</li> <li>・古典は整理されたノートづくりが成績アップにつながるの、ノート提出を課して評価の一部とする。</li> <li>・大学入試に向けての基礎学力養成のため単語・古典文法の小テストを実施し、評価の一部とする。</li> <li>・考査は現代文・古典に分けて実施するが、学年末には両方の得点を併せて国語総合として評価する。</li> </ul> |                        |  |  |   |



|       |              |          |                  |
|-------|--------------|----------|------------------|
| 科目名   | 単位数          | 指導学年・類・型 | 必修・選択            |
| 国語総合  | 5            | 1年・3類    | 必修               |
| 授業担当者 | 教科書名         |          | 副教材等             |
|       | 新編国語総合（東京書籍） |          | 常用漢字ダブルクリア（尚文出版） |

|  |
|--|
| <p>科目の到達目標</p> <p>国語の表現力、理解力を育成し、それらの能力を基盤として、人と人の中での円滑な相互伝達・相互理解を実現する能力を高める。</p> <p>適切な表現や的確な理解の基盤となる思考力を伸長させるとともに、他人への思いやりの心や感動する心など、豊かな人間性を育む。</p> <p>言葉の美しさや用法の適否、表現の効果などを判断する言語感覚を磨き、古典をはじめとする様々な言語文化に目を向け、国語を大切にすることを培う。</p> |
|--|

|  |
|--|
| <p>評価の観点と方法について</p> <p>定期考査と平均点（小テスト・提出物など）により、総合的に評価する。また創作活動などに於いては意欲や授業に対する積極性を対象とし、平常点として考慮していく。</p> |
|--|

|             | 月 | 学習単元・項目  | 学習のねらい  | 具体的な学習内容と方法   |
|-------------|---|--|---|---|
| 一<br>学<br>期 | 4 | 国語の学習について<br>随想「海流」（石川直樹）<br>随想「ルリボシカミキリの青」（福岡伸一）                          | 随想を味わい筆者独自のものの見方、感じ方をつかむ。<br>具体例が本文の展開にどのように関わっているかをつかむ。        | 高校国語の学習の仕方についてよく理解する。<br>言葉を通して日常生活を見直すと共に、文章構成の基本的な枠組みと読解の基本方法を学ぶ。                                       |
|             | 5 | 古典の学習について<br>「児のそら寝」（宇治拾遺物語）<br>1学期中間考査                                    | 古文の表記に慣れ親しませる。  | 古典の学習の仕方についてよく理解する。<br>歴史的仮名遣いに親しみ、音読を繰り返すことで古典の文章表現に慣れる。<br>現代語と古語の違いを整理して学習する                           |
|             | 6 | 小説「とんかつ」（三浦哲郎）<br>評論「無彩の色」（港千尋）<br>※表現学習<br>「用光と白波」（今鏡）<br>「絵仏師良秀」（宇治拾遺物語） | 作品の優れた表現を捉え、じっくりと読み味わう。<br>評論を読み、内容を的確に理解する。<br>物語のおもしろさを理解させる。 | 小説に親しみを持たせ、読書に興味を持つことを目指す。他作品も読む。<br>主述の関係を捉えて要点を理解する。接続詞の種類について理解し、読解に役立てる。<br>古典作品が現代にも通じる内容を持つことを理解する。 |
|             | 7 | 1学期期末考査  |   |   |
|             |   |  |   |   |

|             | 月                                | 学習単元・項目   | 学習のねらい   | 具体的な学習内容と方法   |
|-------------|----------------------------------|---|--|---|
| 二<br>学<br>期 | 9                                | 小説「羅生門」(芥川龍之介)  | 小説に親しみ、話の展開や主題を読み取らせる  | 古典的名作と呼ばれる作品を鑑賞する態度を身に付け、場面ごとに変化していく下人の心理を把握する。   |
|             | 10                               | 「亀山殿の御池に」<br>「奥山に、猫またといふものありて」(徒然草)                       | 兼好法師の考え方を理解させる。兼好法師の価値観を理解させる。   | 作品に即して、描かれた情景や作中人物の性格、心情を正しく理解する。   |
|             |                                  | 2 学期中間考査  |  |   |
|             |                                  | 随想「待つということ」(角田光代)   | 随想文の特徴を考え、評論分との違いをとらえる。  | 筆者の発想がどのように展開しているか、全体の意味内容と、それぞれがどうつながっているかを理解する。   |
|             | 11                               | 詩「空をかついで」(石垣りん)、「二十億光年の孤独」(谷川俊太郎)<br>「うつくしきもの」(枕草子)       | 近現代の詩・短歌・俳句に親しみ、詩情を味わう。<br><br>古人の生き方や自然・人事に対する感じ方を味わう。  | 近現代の詩・短歌・俳句に表われた言葉のはたらきを知り、表現上の特色を理解する。<br><br>作者のものの見方・感じ方を読み味わい、自らの生活を見つめ直す。<br>文章の特徴を考え、内容とどう関係しているかを知る。 |
|             | 漢文入門<br>訓点と格言<br>故「守株」他<br>※表現学習 | 漢文訓読の基本について理解させる。   | 訓点の基礎を学び、自分で書き下し文に出来るようにする。  |   |
|             | 12                               | 2 学期末考査   |  |   |
| 三<br>学<br>期 | 1                                | 評論『美しさの発見』(高階秀爾)  | 現代の課題について論じた評論を読み、考えを深めさせる。  | 評論の構成や論の展開の仕方を理解し、内容を的確に捉える。  |
|             | 2                                | 短歌「その子二十」<br>俳句「春風や」<br>和歌集「万葉集」「古今集」「新古今集」<br><br>『伊勢物語』 | 明治以降の短歌・俳句を理解させる。<br><br>古人の遊びに親しませる。<br>和歌に込められた歌人の思いを理解させる。<br><br>歌物語を読み、登場人物の心情と行動を読み取らせる。 | 歌風や修辞法を体系的に学習する。また、短い言葉に込められた深い意味を理解する。<br>現代作品との類似点・相違点を理解する。<br><br>物語に描かれた平安時代の人々のものの見方、感じ方を味わう。         |
|             | 3                                | ※表現学習<br>学年末考査  |  |   |

その他 ( 履修上の留意点・大学等進学のための学習など )

- ・学習課題ノートの問題に取り組み、国語の基礎力・応用力を養成する。
- ・文章表現の練習を計画的に行い、小論文の力を養成する。
- ・漢字の小テストを実施し、評価に組み込む。